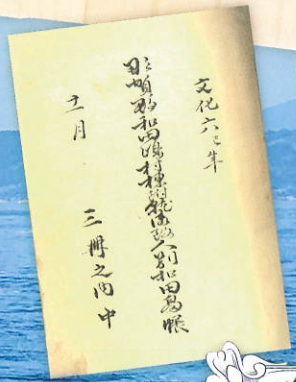
第67回
企画展

入場無料

和田島村と和田津新田
―森家文書と栗本家文書―展



期間 令和5年 10月24日(火)～令和6年 1月28日(日)

開館時間／午前9時30分～午後5時

場所 徳島県立文書館 2階 展示室

休館日 毎週月曜日・毎月第3木曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始(12月29日～1月4日)

展示解説
〈 担当職員によるやさしい展示解説 〉

11月12日[日]、12月15日[金]、1月20日[土]

いずれも午後1時30分～午後2時30分

会場／文書館 2階 講座室・展示室

文化の森総合公園 徳島県立文書館
Tokushima Prefectural Archives
〒770-8070 徳島県徳島市八万町向寺山
TEL.088-668-3700／FAX.088-668-7199
https://archive.bunmori.tokushima.jp

ごあいさつ

文書館にとって、小松島市南部の海岸に近い地域は近世古文書の宝庫になっています。和田島村森家文書は、開発期からの庄屋文書の代表格です。和田津新田栗本家文書は中期以降の新田開発名主の文書で開発過程をほぼ明らかにすることができます。さらに西崎家文書には、坂野村組頭庄屋若槻家の文書が多数含まれていますし、金磯新田名主多田家の文書も様々な形で保管しています。こうした村を越えた文書はこの地域の特長を色濃く示す史料と言えるでしょう。昨年度末に阿波学会が小松島市で行った総合学術調査報告書第六十四号でもこうした史料は多く取り上げられました。そうしたこれまでの蓄積をこの企画展で紹介いたします。

末筆ながら、資料を御提供していただいた皆様に深く御礼申し上げます。

令和五年十月二十四日

徳島県立文書館長　**金原　祐樹**

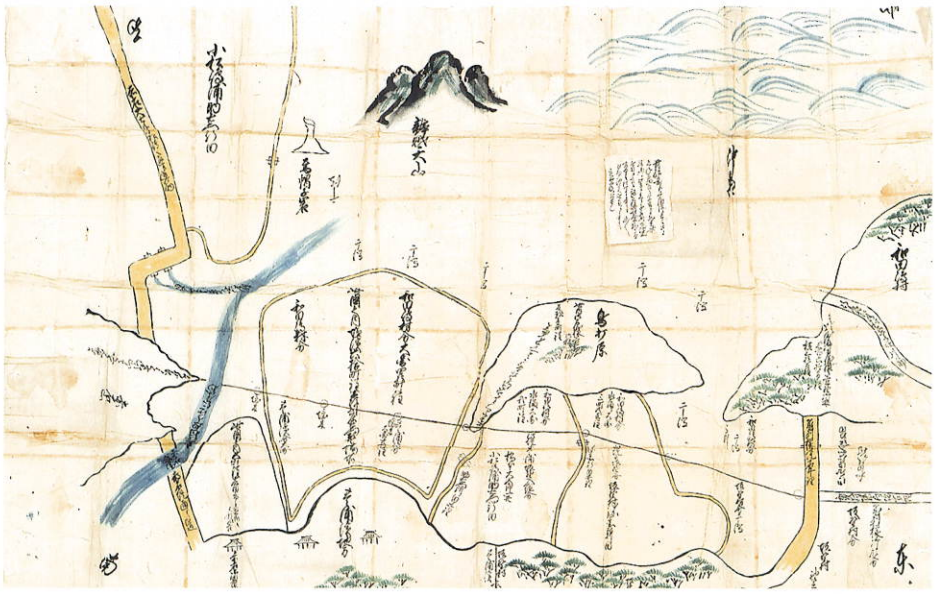
和田島村と和田津新田

那賀郡和田島村（現小松島市和田島町）は、小松島湾東部の半島状の砂嘴の上に立地しており、海上の見晴らしの良い同村には徳島藩の番所が設置されていた。森家文書によれば、同家は蜂須賀入国以前からこの地域の開拓に関わり、江戸時代を通して政所（まどころ）・庄屋役を務めてきた。

紀伊水道は鱧の好漁場で、毎年四～八・九月には淡路国沼島浦（現兵庫県南あわじ市）などの領外漁民が和田島の浜に小屋掛をして鱧漁に従事していた。和田島は彼らから「芝銭」を受け取るとともに、食料を供給するなど、さまざまな交流が見られた。

小松島湾南部の海岸には遠浅の干潟が広がっており、江戸時代前期から干拓が行われていた。元禄八（一六九五）年に橋本大五郎が後の和田津新田（現小松島市和田津開町）となる和田島西側の干拓事業に着手し、事業は後に金磯新田の多田助右衛門に譲渡される。宝永四（一七〇七）年の南海地震前の情況を描いたと思われる絵図には、この橋本大五郎開小松島浦助右衛門新田の他にも坂野村弥兵衛新田や土師庄右衛門が開発を申請していた塩浜（塩田）などが描かれている。しかし、これらの新田・塩浜は宝永地震によって壊滅的打撃を受け開発は頓挫した。

正徳六（享保元年・一七一六）年、那賀郡富岡町（現阿南市）の栗本家が新田の再開発に着手し、延享五年（寛延元年・一七四八）年に和田津新田（元開）が正式に成立し、栗本家は新田名主（しんでんみょうしゅ）（庄屋に相当）となる。その後も中開・西開・堤外と開発は進んでいく。しかし、このようにして築き上げられた和田津新田は嘉永七（安政元年・一八五四）年の南海地震によって再び壊滅的な打撃を受ける。しかし、人々は再び新田の再開発に着手するのである。

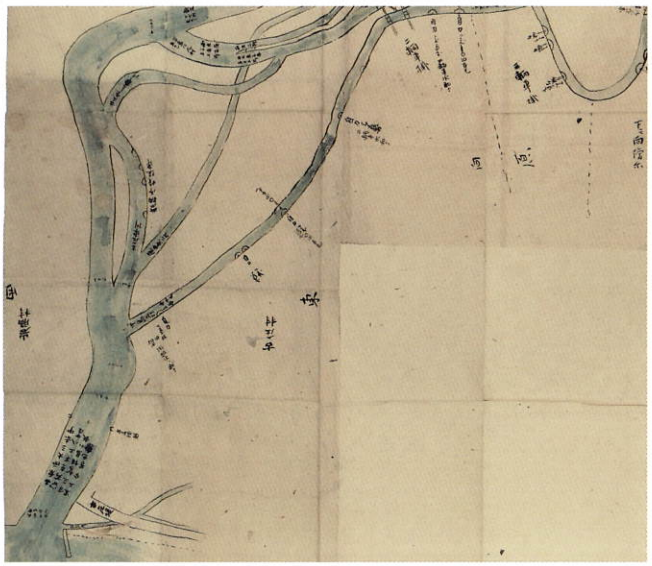


▲坂野村弥兵衛新田（栗本家文書）

宝永地震前の様子を描いた絵図。江戸時代後期に写された同じ絵図が近隣の複数の村々に残されている。

和田津新田・和田島村と用水

徳島県南部に位置する那賀川の北岸一帯は、県内有数の米作がさかんな地域で一面に田畑が広がる。米作りに欠かせないのが水であり、この地域の村々では江戸時代より那賀川から用水を引き、水を得ていた。那賀郡岩脇村（現阿南市羽ノ浦町）の大井手口を取水口として、この地域に張りめぐらされた用水は、村々の耕地を潤し、現在も各所でその姿を見ることができる。大井手口からの用水の分水図である「大井手図」には、那賀川から取り込まれた用水が北岸の村々に向けていくつも分岐している様子が描かれている。取水口近くに用水を利用する村名が書き記されており、この用水が和田津新田・和田島村を含め二十七ヶ村の共用用水であることを示している。村々は用水の共用部分を維持管理するために水利組合を作り、用水の普請など必要な費用を分担した。和田津新田や和田島村のように用水の最下流域にあたる村々では、流路が長く、破損や日照りが続くような年には河川の水量が落ちて水不足となることもあり、村々からは用水の拡張や掘り替えなどの改良を願い出ることも度々あった。



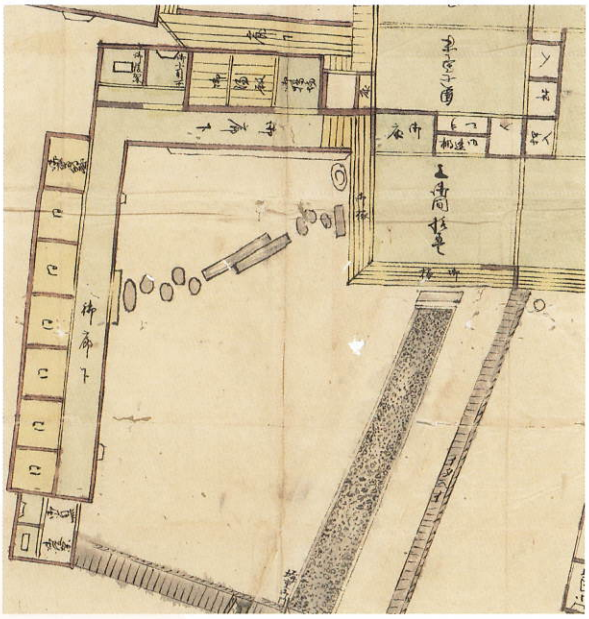
▲大井手図（西野多田家文書）

御留野の管理と鷹狩の接待

鷹狩のために設定された御鷹場は、鷹狩の獲物となる鳥獣を育て守るために原野のままの状態で置いておくことが定められており、御留野（おとめの）といわれる。

和田津新田の一部が御留野であったため、栗本茂平には宝暦九（一七五九）年、藩主の鷹狩の責任者である御鷹奉行より御鷹方制道の下札を受けて御留野制道役を命じられている。天保十四（一八四三）年の栗本家屋敷の図面を見ると、栗本家は藩主が鷹狩に来たときに休憩や宿泊をするために、鷹小屋があったことなどがわかる。

御留野は御鷹奉行によって管理されて一般の村支配とは異なる制約を受けていたため、村側から規制解除などを求める切実な史料を見ることができる。例えば、農作物を荒らす鳥や鹿を脅して追い払うために威し鉄砲を撃つことの許可、稲の実入りを改善するため、鷹方から鳥獣保護のため命じられていた冬の水田の水溜め免除の申請などである。また、料理方の藩士が前日から栗本家に滞在して身分に応じた献立を準備したり、滞在中に座敷に置く調度品の細かな規定があったりと、さまざまな苦労がうかがえる。

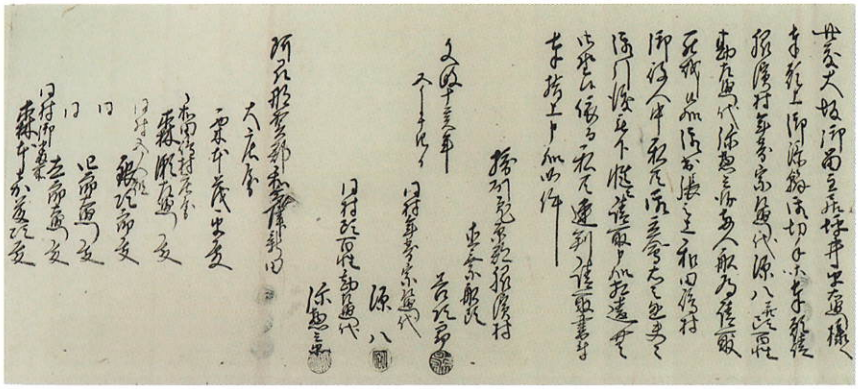


▲栗本茂平居屋敷絵図（栗本家文書）鷹小屋周辺部分の拡大図

摂州脇浜村善次郎持船紀州沖難船一件

社会が安定してきた江戸時代は物資の輸送が増大し、海運業が大きく発展する時期であった。しかし同時に海難事故も増加していった。文政十（一八二七）年四月四日摂州脇浜村（現神戸市）を出帆した善次郎の船（八反帆）は紀州の湊々で商いをしながら航海を続けていたが、十九日に雨交じりの強い風波を受け、楫（かじ）が折れ難船となっている。救助を受ける最中に船頭善次郎は海中に投げ出され、また水主虎蔵・元助は救助されるが、「金銀凡弐貫目程」が入った財布を誤って捨てる災難に見舞われている。その後、善次郎も救助され国元から支配人が訪れ、阿尾浦（現和歌山県日高町）庄屋たちから、この難船一件に関わった役人田端喜三兵衛の裏書を得た浦手形が渡されている。

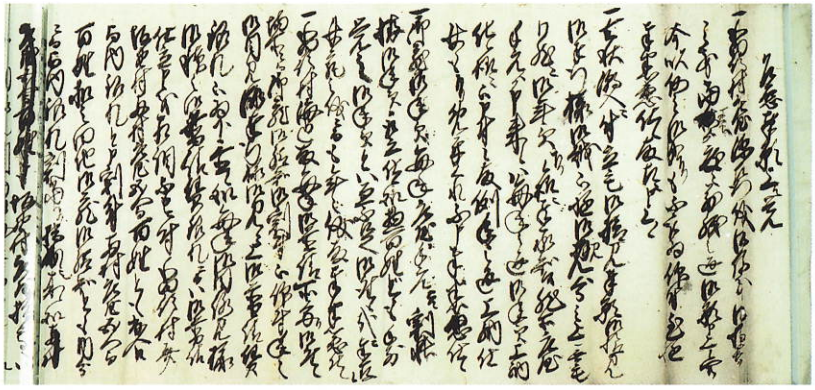
一方、救助中に「遙沖間江致流失候儀」と行方が分からなくなっていた善次郎の船は、二十日に和田島村へ漂着している。その後、大坂留守居坪井平右衛門のもとに返還の願いが届き、善次郎外二名が漂着船請け取りのため和田島を訪れ、和田津新田大（組頭）庄屋栗本茂平・和田島村庄屋森瀬左衛門ら村役人立ち会いの上、引き渡しが行われている。



▲覚（森英雄家文書）摂州脇浜村善次郎らから栗本茂平・森瀬左衛門らに出された船の受取書

庄屋交代を求める村方騒動

森家は和田島村で代々庄屋を務めていた家であるが、明和三（一七六六）年二月、百姓らに庄屋退役を迫られる騒動が起こっている。この騒動は前年八月の風雨により破損した「大手堤大場」の修繕に関して百姓らと当時の庄屋森源左衛門とで折り合いがつかなかったことに端を発し、百姓らは六ヶ条に渡って源左衛門の不正を訴え、庄屋交代を求めた。なかでも①給知の年貢取立御用に百姓を「行キ（あるき）」（村内で藩の通達などを触れ歩きする者）として召連れるので迷惑している②和田島村は普請が多く、目論見奉行（勧農普請等の下調査・会計などを担当）からの普請賃だけでは足りないため坂野村と与内銀を出しているが、源左衛門は一向に出さないため迷惑している件については中々片付かなかったようだが、①これまで通りに「行キ」を務めさせるが百姓たちに支障があれば源左衛門が「手人」を呼ぶ②庄屋は諸懸りを免除されているので与内銀は負担しないという形で落着し、源左衛門はその後も庄屋を務めた。この騒動は村方騒動の一例だが、海辺に位置する土地柄、普請が多く、負担となっていたことなど村の特徴が見受けられる点が興味深い。



▲乍恐奉願上ル覚（森英雄家文書）百姓らが郡代手代へ出した庄屋交代を求める願書

第67回企画展「和田島村と和田津新田 ―森家文書と栗本家文書―」
令和5年10月24日発行
編集・発行 徳島県立文書館 〒770-8070 徳島市八万町向寺山 電話：088-666-3700
印刷 (協)徳島印刷センター 〒770-8056 徳島市問屋町1-65番地 電話：088-652-0135

展示資料一覧

No.	標　題	年 代	資料番号
和田島村と和田津新田			
1	那賀郡和田島村棟付御改人別田畠控帳　三冊之内中	文化6(1809)年	モリ300007
2	御尋ニ付申ル覚	安永4(1775)年	クリモ00399
3	覚（苗字帯刀御免、切田一町下付証文）	天明6(1786)年	クリモ00137
4	覚（名西郡桜間池石碑運搬に尽力功績により金子下賜の件）	天保4(1833)年	モリ300040
5	和田島村海辺絵図	寛政5(1793)年	モリ301724
6	乍恐申上ル口上之覚	宝永3(1706)年	モリ300656-1
7	（坂野村八幡宮一件）	（幕末期）	ニシサ00275
和田津新田・和田島村と用水			
8	大井手図	（近世カ）	ニシノ07113
9	坂野村絵図	（近世後期）	ニシサ01173
10	和田島村用水絵図	文化5(1808)年	モリ300056
11	那賀郡黒地村坂野村和多津新田宮倉村立江村五ヶ村相合用水床中ノ庄村損田与内米御蔵給知割賦帳（写）	寛政13(1801)年	クリモ00343
12	乍恐奉願上覚（和田島村用水の八幡村井利に対する訴えの旨、現状維持の願上書・控）	安永7(1778)年	モリ302708
御留野の管理と鷹狩の接待			
13	栗本茂平居屋敷宅絵図面	天保14(1843)年	クリモ01026
14	御鷹方御用並諸願一巻控帳	寛政7(1795)年	クリモ01267
15	申上覚	寛政10(1798)年	クリモ01267
16	10月4日御昼ニ付御次献立	文化13(1816)年	クリモ01267
17	態と申達候（太守御鷹野の手配申付）	寛政11(1799)年	クリモ00798
摂州脇浜村善次郎持船紀州沖難船一件			
18	摂州脇野浜村善次郎持船難船ニ附船頭水主紀州阿尾浦漁船被助浦手形（写）	文政10(1827)年	モリ302488
19	覚（摂州脇野浜村善次郎船流寄、船荷物・船具・衣類等引渡受取書）	文政10(1827)年	モリ302487
20	浦手形之事（讃州高松太郎左衛門の船難船の件）	元禄13(1700)年	モリ302496
庄屋交代を求める村方騒動			
21	乍恐奉願上ル覚（百姓28名による庄屋役交替願・写）	明和3(1766)年	モリ301149
22	乍恐奉願上ル覚（庄屋交替を求める6か条にわたる不正追及の件）	明和3(1767)年	モリ301143
23	御糺ニ付申上ル覚（百姓共より申し上げる庄屋役儀退役の件・控）	明和3(1768)年	モリ301139
24	御糺ニ付申上ル覚（百姓共出入りに付諸懸と給知年貢取立の詰行キに関する済口書付・写）	明和3(1769)年	モリ301148
燃料としての松葉			
25	覚（米・麦・葭・松葉船積水主船切手茂平一判に仰せ付け証文）	宝暦12(1762)年	クリモ00130
26	御郡代御郡当り諸荷積出入船切手帳	文化8(1811)年	クリモ00005
27	諸荷積出入船切手積出控帳	嘉永2(1849)年	クリモ00009
28	和田島・和田津・立江・田野・金磯海辺灘目絵図控	文政10(1827)年	クリモ01035

※資料保存のため展示品の一部を替えることがあります。

☆担当職員によるやさしい展示解説

日時：11月12日(日)・12月15日(金)・1月20日(土)　各午後1時30分から

会場：文書館2階講座室・展示室